昭和医科大学雑誌　第85巻　第3号〔250-257頁，2025〕

第406回　昭和大学学士会例会（保健医療学部会主催）

日　　時　2025年1月11日（土）10：20～16：30
場　　所　昭和大学横浜キャンパス104教室

1. 人工股関節全置換術後の自覚的脚長差が退院時の患者満足度に及ぼす影響とその要因の検討

[1] 昭和大学大学院保健医療学研究科リハビリテーション分野
[2] 昭和大学病院リハビリテーションセンター
[3] 昭和大学大学院医学研究科整形外科学分野
大久保竜希[1,2]，湖 東　聡[1,2]
野 口　悠[1,2]，臼井　勇樹[3]
吉川　泰司[3]，　加茂野有徳[1]

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

2. 立位側方床外乱応答における頭部，胸郭，骨盤の動きと視覚の影響

[1] 昭和大学大学院保健医療学研究科リハビリテーション分野
[2] 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院リハビリテーションセンター
遠藤万里子[1,2]，本島　直之[1,2]
保坂雄太郎[1,2]，加茂野有徳[1]

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

3. ゼロポジション近似肢位における肩外旋筋力と肘内反トルクの関係

[1] 昭和大学大学院保健医療学研究科リハビリテーション分野
[2] 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院リハビリテーションセンター
[3] 昭和大学スポーツ運動科学研究所
[4] 昭和大学病院リハビリテーションセンター
[5] 昭和大学病院附属東病院リハビリテーションセンター
[6] 昭和大学藤が丘病院整形外科
髙橋　知之[1,2]，田村　将希[2,3]
野 口　悠[1,4]，前田　卓哉[1,5]
阿蘇　卓也[2,3]，井上　駿也[1,2]
古山　駿平[1,2]，磯崎　雄一[3,6]
古屋　貫治[3,6]，西中　直也[1,3]

【発表内容掲載論文】
肩関節．2024;48:422-426.

4. 術前三角筋体積とリバース型人工肩関節全置換術後の自動屈曲可動域との関係性

[1] 昭和大学大学院保健医療学研究科リハビリテーション分野
[2] 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院リハビリテーションセンター
[3] 昭和大学スポーツ運動科学研究所
[4] 昭和大学病院附属東病院リハビリテーション室
[5] 昭和大学病院リハビリテーションセンター
[6] 昭和大学藤が丘病院整形外科
井上　駿也[1,2]，　高橋　裕司[1,2,3]
前田　卓哉[1,4]，　田村　将希[2,3]
阿蘇　卓也[2,3]，　野 口　 悠[1,5]
高橋　知之[1,2]，　古山　駿平[1,2]
尾﨑　尚代[1,2,3]，古屋　貫治[3,6]
西中　直也[1,3]

【発表内容掲載論文】
肩関節．2023;47:181-186.

5. 大学ラグビー選手のポジションの違いによる傷害部位の検討

[1] 昭和大学スポーツ運動科学研究所
[2] 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院リハビリテーションセンター
[3] 昭和大学保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻
[4] 昭和大学藤が丘病院整形外科
[5] 昭和大学歯学部小児育成歯科学講座
[6] 昭和大学保健医療学部看護学科
田村　将希[1,2]，阿蘇　卓也[1,2]
髙橋　知之[2]，　古山　駿平[2,3]
井上　駿也[2]，　松永　勇紀[1,2,3]
新田　雅一[1,5]，安部　聡子[1,6]
古屋　貫治[1,4]，西中　直也[1,3]
三邉　武幸[1]

【はじめに】
ラグビーのポジションは大きくフォワード（FW）とバックス（BK）に分けられ，FW と BK ではプレースタイルの違いから傷害部位の特徴が異なる可能性がある．本研究では，大学ラグビー選手のポジションによる，傷害部位の違いを検討することを目的とした．

【方法】
2019 年～ 2023 年にメディカルチェック（MC）を初診で実施した大学ラグビー選手 178 名を後方視的に調査した．MC の全項目を行えなかった選手は除外対象とした．
MC で使用した問診票から，傷害部位（現在の疼痛部位およびタイムロスを生じた外傷部位）を調査した．統計学的解析には Fisher の正確検定を用い FW と BK の 2 群間で比較した．有意水準は 5％未満とした．

【結果】
解析対象は 116 名（FW58 名, BK58 名）となった．現在の疼痛部位訳は FW で腰部（30.0％），肩関節（25.0％）の割合が多く，BK で手関節・手（14.3％）の割合が多い傾向であった（p＝0.03）．タイムロスを生じた外傷部位は両群ともに肩関節，膝関節，足関節・足部が多い傾向であったが有意差はなかった（p＝0.23）．

【考察】
FW はコンタクトプレーが多いことが特徴で，コンタクトの時の衝撃から腰部と肩関節外傷が多いと考えられる．BK はディフェンスの際にトップスピードの相手の進行を止める役割がある．その際に手関節の外傷を引き起こしやすい可能性がある．

6. 一般成人の母音発声時の鼻咽腔閉鎖機能 ―聴覚判定と鼻息鏡所見，鼻咽腔内視鏡検査の結果―

[1] 昭和大学大学院保健医療学研究科リハビリテーション分野
[2] 昭和大学大学院歯学研究科口腔機能リハビリテーション医学分野
中原　甲斐[1]，武井　良子[1]
野末　真司[2]，小林　一女[1]

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

7. 病院勤務者（医療従事者）の不妊治療に関わる組織的支援に関する研究

昭和大学大学院保健医療学研究科医系基礎・専門・教育分野
磯飛　雄一，上條　由美
的場　匡亮

【背景】

不妊治療には多くの通院が必要であり，組織的支援（人事制度）の整備が重要となるが，現状は充実していないと想定される．本研究の目的は，不妊治療（体外受精）を実施している医療機関の人事制度を企業と比較し，現状を明らかにし，組織的支援の拡大に向けた課題を検討することである．

【方法】

厚生労働省が企業に実施した不妊治療アンケートを用いて，全国の『生殖補助医療管理料の届出をしている病院』181 施設を対象に調査を実施した．企業と病院との結果をカイ二乗検定，Fisher の正確確率検定を用い，有意確率は p 値＜0.05 を有意差ありとした．

【結果】

病院の方が不妊治療に特化した取組が多く，相談を受けている割合も多かった．一方で，不妊治療に関する普及啓発，相談支援体制については病院も企業も充実していなかった．

【考察】

病院の方が不妊治療に特化した取組が多い理由として，病院は女性の就業割合が高く，アンケート対象施設が不妊治療実施施設であることも影響していると考える．しかし，病院で不妊治療に関する普及啓発ができていないため，職員の認知が不十分であり，相談支援の提供や不妊治療支援制度の取得に繋がっていないことが考えられる．

一方で，相談を受けている割合は病院が多いのは，病院の方が医療従事者であるため，相談し易い環境が醸成されていると考えられる．

8. 輸液投与ルート内圧がシリンジポンプの流量精度に及ぼす影響

[1] 昭和大学大学院保健医療学研究科医療技術分野
[2] 昭和大学藤が丘病院臨床工学室
[3] 昭和大学病院臨床工学室
[4] 昭和大学江東豊洲病院臨床工学室
[5] 昭和大学横浜市北部病院臨床工学室
菊地　武[1,2]，鈴木　完[1,3]
神崎　俊治[1,4]，杉浦　敦[1,5]
園部　富裕[1,3]，鳥居　一喜[1,5]
野川　悟史[1,2]，大石　竜[1,3]

【発表内容掲載論文】

投稿中または今後投稿予定

9. Two-Dimensional Digital Subtraction Angiography（2D-DSA）から予測した硬膜動静脈瘻における Three-dimensional Rotational Angiography（3DRA）造影条件の検討

[1] 昭和大学大学院保健医療学研究科医療技術分野
[2] 昭和大学江東豊洲病院放射線技術部
[3] 昭和大学藤が丘病院放射線技術部
[4] 昭和大学病院放射線技術部
石本　陽平[1,2]，安田　光慶[1,3]
先山　耕史[1,4]，佐藤　久弥[1,4]

【発表内容掲載論文】

Showa Med Univ J. 2025;**37**:26–32.

10. 脊椎固定術中における整形外科医の放射線被ばく低減を目的とした新規放射線防護具の至適使用方法の検討

[1] 昭和大学大学院保健医療学研究科医療技術分野
[2] 昭和大学横浜市北部病院放射線技術部
[3] 昭和大学藤が丘病院放射線技術部
[4] 昭和大学病院放射線技術部
隅　真一郎[1,2]，安田　光慶[1,3]
佐藤　久弥[1,4]

【発表内容掲載論文】
昭和医科大学雑誌．印刷中.

11. 連続焦点型眼内レンズと単焦点眼内レンズの術後視野感度と Ganglion Cell Analysis の相関について

[1] 昭和大学大学院保健医療学研究科リハビリテーション分野
[2] 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院医療技術室
[3] 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院眼科
[4] 昭和大学大学院医学研究科眼科学分野
[5] 昭和大学江東豊洲病院外科系診療センター眼科
川村　彩珠[1,2]，渡邊早弥子[3]
早田　光孝[3,4]，西村　栄一[3,4]
岩渕　成祐[1,4,5]

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

12. 集中治療室における作業療法士の役割に関する混合研究

[1] 昭和大学大学院保健医療学研究科リハビリテーション分野
[2] 昭和大学江東豊洲病院リハビリテーション室
関　雅良[1,2]，鈴木　久義[1]

【発表内容掲載論文】
Showa Med Univ J. in press

13. ナチュラルホースマンシップがホースセラピーに与える影響
―アンケート調査を通して―

[1] 昭和大学大学院保健医療学研究科リハビリテーション分野
[2] 昭和大学病院附属東病院リハビリテーション室
千賀浩太郎[1,2]

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

14. 幻視が現れているレビー小体型認知症高齢患者の服薬行動に関する支援：コミュニケーションが困難な事例を通して

昭和大学認定看護師教育センター
西村　美里

レビー小体型認知症（dementia with Lewy bodies：以下，DLB）は，レビー小体が大脳皮質と脳幹に蓄積することにより，認知機能の低下やパーキンソ症状などを引き起こすといわれている．特に幻視や妄想が出現することによって，DLB の人は他の認知症とは異なる苦悩を抱え，家族は介護の難しさを感じていると報告されている．今回，医療機関に入院し，幻視が出現している DLB 高齢患者の服薬行動に着目した．医療機関に入院した場合，認知症と診断された患者の服薬管理は，看護師によって行われる．幻視のある DLB 高齢患者 2 名の服薬行動を質的に分析し，支援の内容を検討した．

2 名の DLB 高齢患者は N 式老年者用精神状態尺度で重度に該当したが，看護師が内服するよう声を掛けながら薬剤を載せたスプーンや薬袋を口唇に近づけることで開口し，服薬することができた．2 名

の服薬行動に共通するカテゴリーは，「幻視のあるがままに振る舞う」「現実に戻り看護師に向き合う」「幻視に向き合ったまま服薬を遂行する」であった．更にカテゴリー同士は非常に短い時間で移行する，または一部重なって生じている特徴がみられた．高齢者は複数の身体疾患を抱えながら長い年月を過しているため，服薬は日常生活動作の中で最も身近な行為であると考える．幻視のある DLB 高齢患者にとっても同様である．看護師側が DLB 高齢患者の行動の意味を理解し，タイミングを計ることで拒否なく服薬行動を継続することが可能であることが示唆された．

15. 臨床指導者教育に関するナラティブレビュー

[1] 昭和大学病院附属東病院看護部
[2] 昭和大学藤が丘病院看護部
[3] 昭和大学保健医療学部看護学科
[4] 昭和大学助産学専攻科
古川　浩次[1,3]，菊田　一夫[2,3]
佐藤真樹子[2,3]，髙木　睦子[2,4]
藤後　秀輔[2,3]，南部　恭子[2,3]

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

16. スタッフを巻き込んで取り組んだ業務改善が働きやすさにつながった要因

[1] 昭和大学江東豊洲病院看護部
[2] 昭和大学病院附属東病院看護部
[3] 昭和大学保健医療学部看護学科
沼 崎　憧[1]，古川　浩次[2,3]
大﨑千恵子[3]

【目的】前年度の職務満足度調査の結果から，所属病棟の看護職員が業務上でのストレスを抱えていることが判明したため，働きやすさを目的として業務改善を行った．本研究の目的は，看護職員を巻き込んで取り組んだ業務改善が働きやすさにつながった要因を明らかにすることである．

【方法】B 病棟の固定チームナーシングでの 4 チームに対して，それぞれ 1 つ，計 4 つの業務改善テーマを割り当てて，4 月からの 9 か月間で実施した．業務改善の開始に際して，①全工程で全員の意見を取り入れる，②各々に応じた役割を合議で決める，③チームリーダーが具体的な承認行動を増やし支援する，を方針とした．評価は「業務改善前後での働きやすさの変化」「提案した業務改善の達成割合」により行った．

【結果】業務改善前後で「仕事がしやすくなった」「業務改善を自ら行い，解決できて楽しかった」などの意見が得られた．業務改善の達成割合はすべて 100％であった．前年度と比較して，職務満足度は 5 点満点中，2.8 点から 3.6 点に上昇し，超過勤務時間は平均 11.6 時間から 10.4 時間と減少した．

【考察】トップダウンではなく主体性を引き出すような働きかけにより，各自が目標達成に向けた活動に取り組み，確実に業務改善が図られた．また，チームリーダーからの丹念なポジティブフィードバックにより，看護職員は自身が行った業務改善に意義を見い出した．これらの結果，働きやすさにつながったと考える．

17. 【取り下げ】

18. 【取り下げ】

19. ICU 看護師が人生の最終段階を迎える患者家族へ提供した関わりの調査

[1] 昭和大学大学院保健医療学研究科看護分野
[2] 昭和大学メディカルデザイン研究所
[3] 昭和大学 IR 室
小山　峻平[1]，大 滝　 周[1,2]
福地本晴美[1]，下司　映一[3]

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

20. COVID-19 流行による健診受診者の MetS 年次推移と健康課題
～ 2018 ～ 2023 年度の特定健診データによる分析～

[1] 昭和大学大学院保健医療学研究科医系基礎・専門・教育分野
[2] 昭和大学 IR 室
[3] 昭和大学大学院保健医療学研究科看護分野
[4] 東京・八重洲総合健診センター
長井　瑠菜[1]，安部　聡子[1]
下司　映一[2]，福地本晴美[3]
後藤　澄子[4]

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

21. 病院に勤務する医療従事者のワーク・エンゲイジメントと仕事のコントロール感との関連

[1] 昭和大学大学院保健医療学研究科医系基礎・専門・教育分野
[2] 昭和大学保健医療学部看護学科
紺野　健太[1]，大久保茂子[1]
古川　浩次[2]，荒井　亮介[2]
菊田　一夫[2]，榎田めぐみ[1]

22. 臨床看護師の災害看護実践に影響する要因と課題
―関東及び東北の災害拠点病院所属看護師による比較検討―

[1] 昭和大学大学院保健医療学研究科医系基礎・専門・教育分野
[2] 昭和大学病院看護部
[3] 昭和大学 IR 室
[4] 昭和大学大学院保健医療学研究科看護分野
[5] 昭和大学藤が丘病院看護部
永田　賢司[1,2]，安部　聡子[1]
下司　映一[3]，　福地本晴美[4]
熊沢　真弓[1,5]

【発表内容掲載論文】
昭和医科大学雑誌．印刷中

23. 看護師と助産師の職務満足度に関する研究

[1] 昭和大学大学院保健医療学研究科医系基礎・専門・教育分野
[2] 昭和大学大学院保健医療学研究科看護分野
水井　美生[1]，下平　和久[1]
上田　邦枝[2]

【発表内容掲載論文】
昭和医科大学雑誌．印刷中

24. 主任看護師の捉える職務遂行能力の探索
―実践管理研修を修了した主任看護師を対象として―

昭和大学大学院保健医療学研究科看護分野
佐々木仁美，田村　由衣
川村　晴美，三村　洋美

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

25. 新人看護師の就業継続に影響を与える要因の探索

[1] 昭和大学大学院保健医療学研究科看護分野
[2] 昭和大学横浜市北部病院看護部
髙林　郁美[1,2]，三村　洋美[1]
大崎千恵子[1]

【目的】新卒の看護師が離職をせず，就業を継続できた要因を探索することである．

【方法】A 病院に勤務する看護師で，2019 年以降に看護学生であった 1,000 名に WEB アンケートの説明の用紙を配布し 343 名が回答した．アンケートの構成は，基本属性，職業性ストレス，就業継続要因などである．分析は基本統計量，職業ストレスの特徴を見るために新卒の時に離職を考えた群と考えなかった群に分けて職業ストレス 16 項目間の相関分析（Spearman）を行った．また，離職と考えた群と考えなかった群の就職継続要因の差異について χ 二乗検定を行った．

【結果】職業ストレスの特徴として，離職を考えた群は「働きがい」と「対人関係」（$rs = 0.25$，$p = 0.002$）に，離職を考えなかった群は「働きがい」と「職場環境」（$rs = 0.16$，$p = 0.028$）に相関を認めた点で違いがあった．また，離職を考えた群では，その理由は「入職前と入職後で感じた理想と現実のギャップ」，「職場内の人間関係」，「こころと身体の健康問題」，「医療ケアへの恐怖」であると答える傾向があった．就業継続要因では，離職を考えなかった群では「配属部署が希望通り」，「上司との関係が良い」と答えており，離職を考えた群では「福利厚生が充実」，「他に適当な勤務先がない」と答えており，これらに有意な差（p 値 < 0.05）があった．

【考察】就業継続のためには，職場環境や対人関係，ワークライフバランスに関しての支援が重要であると考える．

26. 手術室看護師が提供する看護技術の実態調査

[1] 昭和大学大学院保健医療学研究科看護分野
[2] 昭和大学メディカルデザイン研究所
山下　元樹[1]，大 滝　 周[1,2]

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

27. 治療計画検証ソフトウェア臨床導入に向けた基礎特性の評価

昭和大学大学院保健医療学研究科医学物理教育分野
橋本　雄作，宮浦　和徳

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

28. 網膜静脈分枝閉塞症に対するラニビズマブ及びアフリベルセプト硝子体内投与翌日の成績

[1] 昭和大学大学院保健医療学研究科リハビリテーション分野
[2] 昭和大学大学院医学研究科眼科学分野
[3] 昭和大学江東豊洲病院眼科
[4] 昭和大学医学部眼科学講座
園部　大輔[1]，小菅正太郎[2]
平 野　 彩[3]，安達　まい[4]
石橋　慧一[4]，岩渕　成祐[1,2]

【発表内容掲載論文】
臨眼．2025;**79**:457-464.

29. うつ病患者におけるハーブ療法が EEG アルファ波活動に与える影響

[1] 昭和大学大学院医学研究科生体調節機能学分野
[2] 人間総合科学大学人間科学部心身健康科学科
[3] 昭和大学医学部整形外科学講座
松井美彩子[1]，政岡　ゆり[1]
小岩　信義[2]，本間　元康[1]
阪倉　俊介[1]，稲垣　克記[3]
泉﨑　雅彦[1]

【発表内容掲載論文】
投稿中または今後投稿予定

30. 女性下部尿路症状とエクオール産生能との関連について

[1] 昭和大学大学院医学研究科産婦人科学分野
[2] 昭和大学横浜市北部病院産婦人科
[3] 昭和大学横浜市北部病院女性骨盤底センター
[4] 昭和大学大学院医学研究科泌尿器科学分野
中川　智絵[1, 2, 3]，岡田　義之[2, 3]
野村由紀子[1, 2, 3]，嘉村　康邦[3, 4]
関沢　明彦[1]

【発表内容掲載論文】
J Obstet Gynaecol Res. 2025;**51**:e16266.